

## 高齢者の衣生活と積極的生活態度

—日本・ドイツ・イギリス・デンマークの調査より—

古松弥生 山口典子 ○陳宜霞 (十文字学園女短大)

目的：高齢者が自立して、生き甲斐をもっていきいきと生きるために衣生活はいかにあるべきか、また積極的生活態度との関係を探ることを目的とした。

方法：日本、ドイツ、イギリス、デンマーク在住の積極的生活態度を持つと思われる 64 歳以上の高齢男女を対象とし、1994 年から 1997 年に留め置きのアナライズ調査を行った。

日本では、関東地区友の会に所属する男子 122 名、平均年齢 (72 歳) 女子 218 名 (73 歳)、ドイツでは、ハイデルベルグ在住の教会関係で活動している男子 64 名、(73 歳) 女子 125 名 (76 歳)、イギリスでは、ヨーク州在住のサードエイジ ユニバーシティなどで活動している男子 56 名 (73 歳) 女子 88 名 (74 歳)、デンマークでは、コペンハーゲン近郊およびロスキレ市に在住する男子 72 名 (70 歳) 女子 87 名 (71 歳) である。

結果：「新しいことに挑戦する態度」「知識を増やし自己実現をはかろうとする態度」「好奇心」などの観点から 11 項目を設問し、積極的生活態度を測ろうと試みた。国別、男女別に因子分析した結果、男女共に国別に違いが見られた。第 1 因子は男子では、日本「新しいことに挑戦」ドイツ「新しい人との交流」イギリス「若い人との交流や知識を増やす」デンマーク「衣服による個性発揮」。女子では、日本、ドイツ「新しい衣食」イギリス、デンマーク「衣服による個性発揮」。衣生活に関する意識 12 項目の因子分析の結果も国別、男女別に相違があった。第 1 因子は男子では、日本、イギリス「おしゃれを楽しむ」ドイツ「年齢にあった目立たない服装」デンマーク「若々しく個性を発揮」。女子では、日本、ドイツ、デンマーク「年齢にあった目立たない服装」イギリス「人に見られることを意識」であった。